

「いのちめぐるまち」 南三陸町の取り組み

南三陸町企画課

課長 宮川 舞

(一社) サスティナビリティセンター
代表理事／東北大学客員教授

太 齋 彰 浩



宮川 舞
Miyakawa, Mai

南三陸町企画課
課長

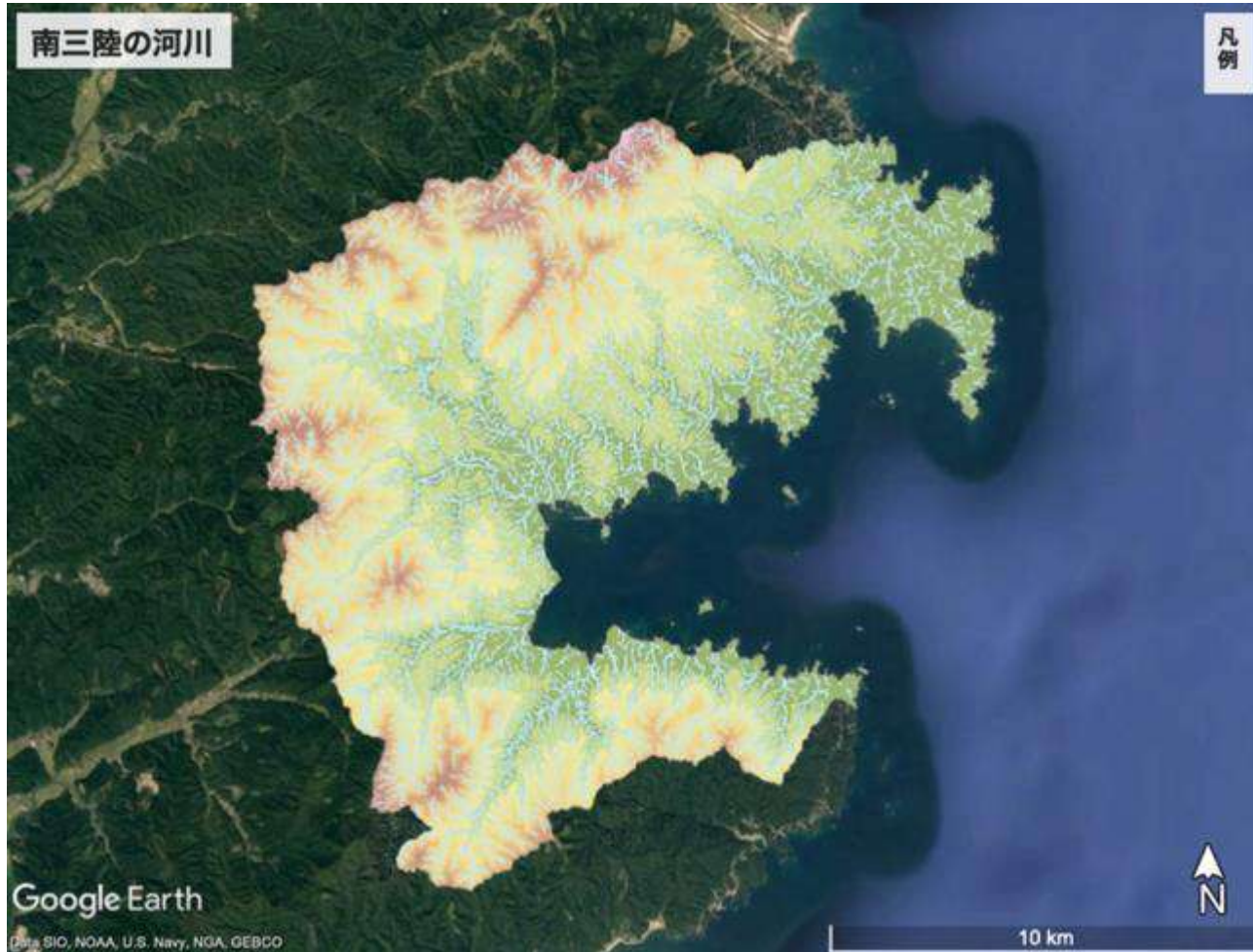
1995年 南三陸町(旧志津川町)入庁・総務人事部門
2007年 産業振興課（現商工観光課）
2022年 商工観光課長
2025年 企画課長（現在に至る） 観光まちづくりや地域コミュニティづくりの実績を経て、現在は町全体の政策やネイチャーポジティブ、高校魅力化などを統括



太齋 彰浩
Dazai, Akihiro

一般社団法人サステナビリティセンター / 代表理事
東北大学 ネイチャーポジティブ発展
社会実現拠点 / 客員教授

筑波大学環境科学研究科修了（修士・環境科学）
民間の研究機関で、海洋生物・生態学研究に従事後、
地域密着型の教育活動をこころざし、志津川町（現・
南三陸町）へ移住。 使われなくなった箱もの施設を
再生し、志津川湾を学びのフィールドに変えることで
年間数千人の交流人口を創出。



宮城県南三陸町

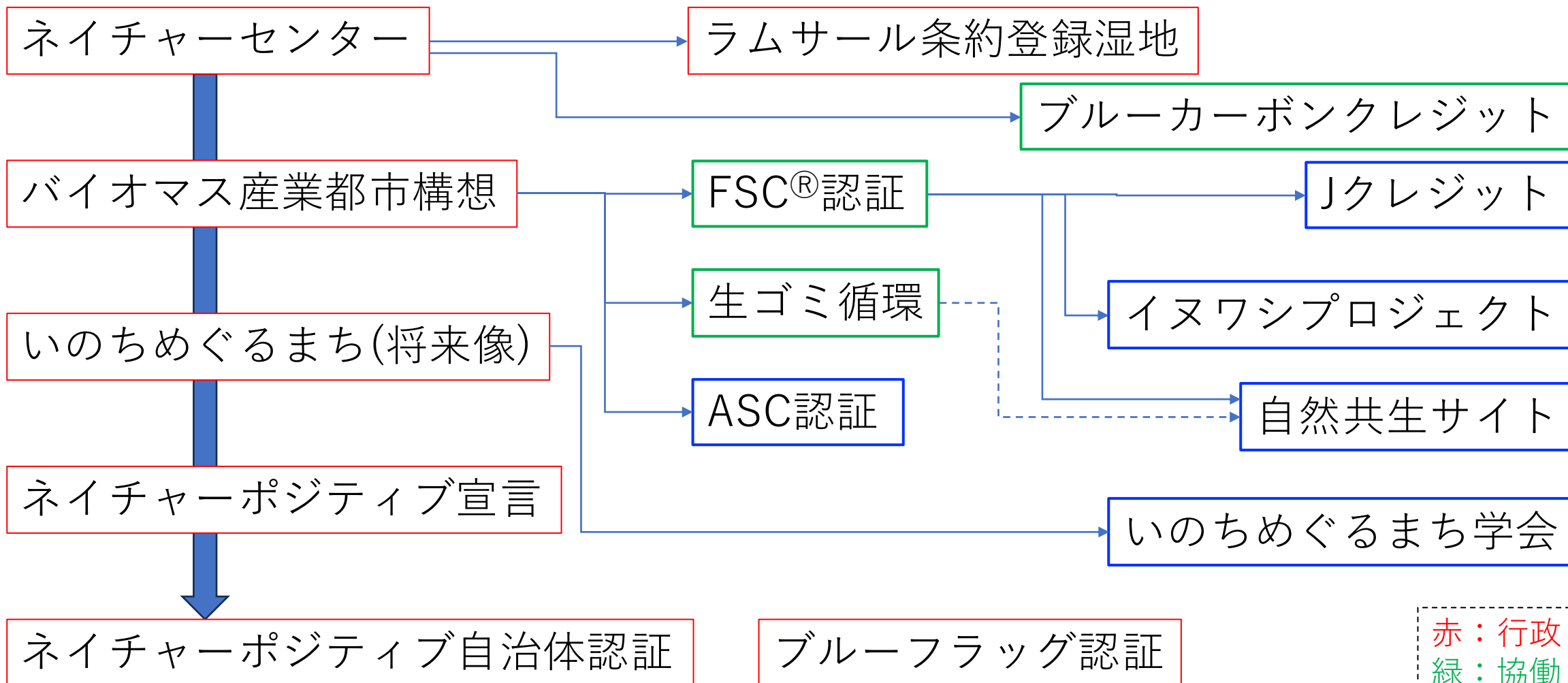
分水嶺に囲まれた町

森里川海が凝縮した
「小さな世界モデル」

将来像：

「ひと 森里海
いのちめぐるまち」

南三陸はネイチャー・ポジティブの見本市



ネイチャーセンター（自然環境活用センター）の活動



- 独自の生物相調査を実施
- 標本数 800点以上
- 多くの新知見
- 生物多様性 = 地域の魅力
- 研究・研修利用で年間2,500名



モニタリングサイト1000
全国6箇所しかない
藻場サイト（環境省）

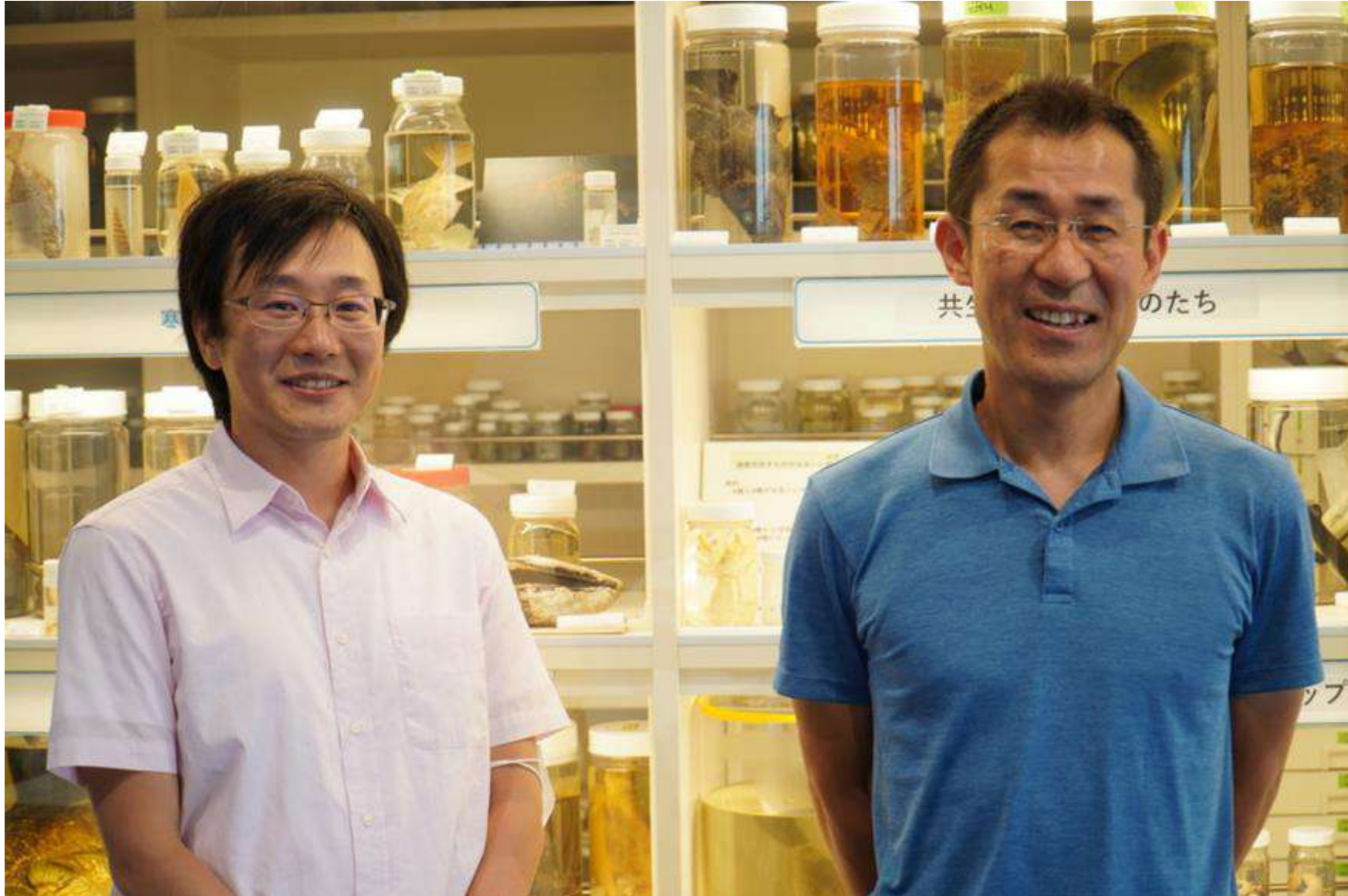
2018/10ドバイ会議
ラムサール条約湿地登録



生物の分布 ≡ 研究者の分布

研修プログラムの提供
サイエンスキャンプの開催
ダイビング事業のキッカケ

ネイチャーセンターの存在抜きに南三陸は語れない。
現在も2名の研究員が常駐し、活動中。



震災直前の志津川市街地

南三陸町立志津川中学校

凡例

南三陸町

南三陸町立志津川小学校

Google Earth

Image © 2023 Maxar Technologies

700 m



震災直後の志津川市街地

南三陸町立志津川中学校

凡例

南三陸町

南三陸町立志津川小学校

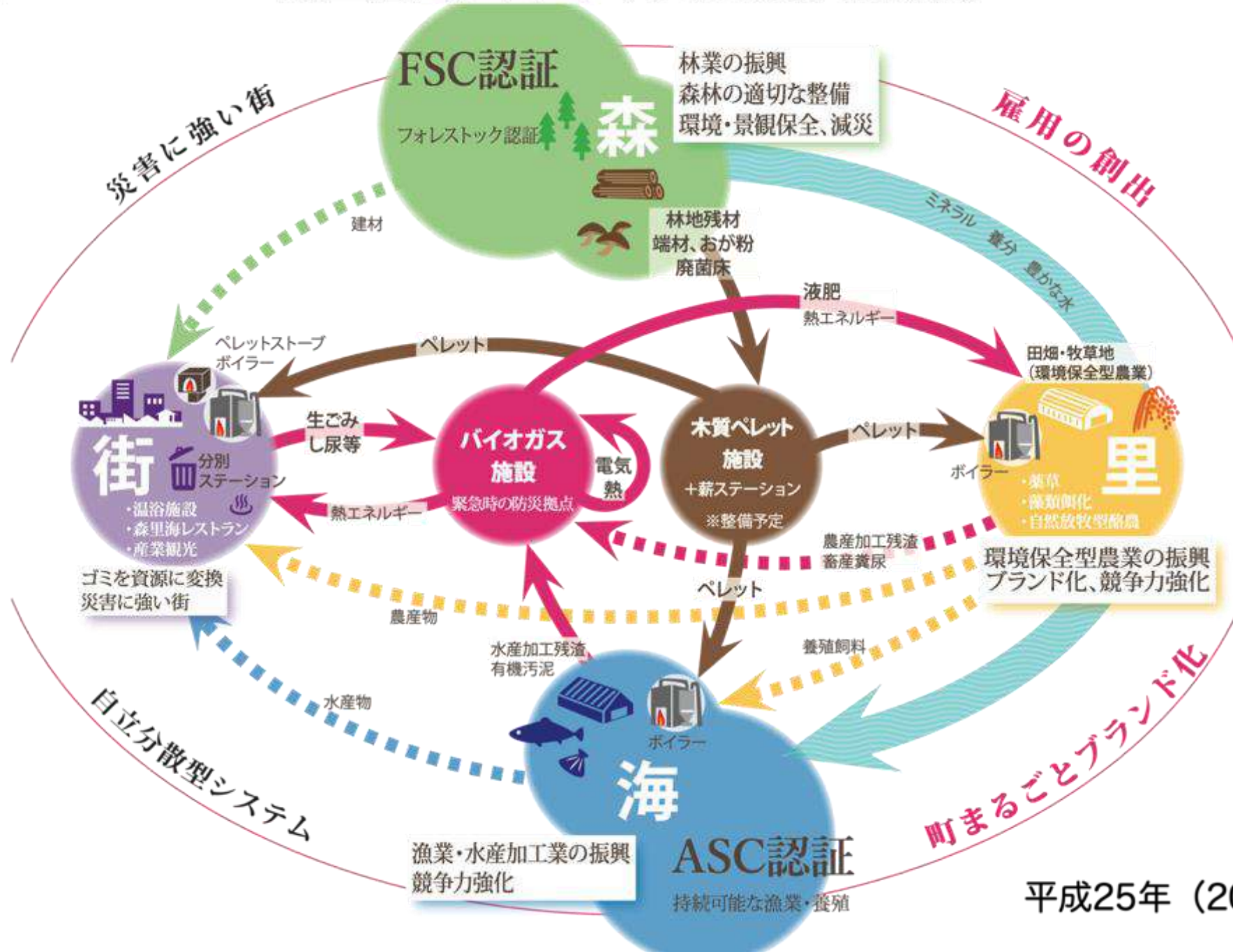
Google Earth

700 m

N



南三陸町バイオマス産業都市構想



平成25年（2013年）12月策定

下層植生が豊かな南三陸杉の森
県内初のFSC®認証取得



2015年10月取得



全体スケジュール

2029年までに、3回の放鳥・モニタリングを行う計画です。

	2025	2026	2027	2028	2029
実施準備	施設設備等				
営巣環境設備	人工巣設置				
生息環境再生					
第一回放鳥		繁殖・飼育	放鳥・放鳥後モニタリング		
第二回放鳥			繁殖・飼育	放鳥・放鳥後モニタリング	
第三回放鳥				繁殖・飼育	放鳥・放鳥後モニタリング



メッセージ



南三陸地域イヌワシ生息環境
再生プロジェクト協議会
会長
鈴木 卓也

生まれも育ちも南三陸町志津川である私がイヌワシと出会ったのは11歳の夏、海辺から内陸に越える時の上を急々と飛ぶ姿を見たのがはじめてでした。以来、イヌワシと共に暮らせるふさとを誇りとしてきました。

私たちのイヌワシの師である立花聖信先生は晩年、「自分より先に磐余山のイヌワシがいなくなるとは」と嘆いておられましたが、同時に「このままでは遠からず日本のイヌワシは絶滅する。なにもせずに後悔するくらいなら、いまできることを試した方がよい」ともおっしゃっておられました。その思いが私たちの活動の原動力となっています。いまならまだできることを、東北の片隅の南三陸から始めたいと思います。

みなさまのご支援ご協力を心からお願い申し上げます。



公益財団法人
日本自然保護協会
理事長
土屋 俊幸

日本自然保護協会は長年にわたり、豊かな森林生態系のシンボルであるイヌワシの保護に取り組んできました。これまでは、生息環境の再生を中心とした取組を進めてきましたが、繁殖成功率の低下とつがい数の減少には歯止めがかからず、イヌワシは絶滅の危機にあります。

そうした中で、多様な関係者と連携して準備を進めてきたのが、この「南三陸イヌワシ野生復帰プロジェクト」です。いま、世界ではネイチャーポジティブの取組みが各地で進められていますが、そこでは、広域の視点からのランドスケープアプローチがたいへん重要です。当プロジェクトはまさにその視点から進められており、日本初の取組であるため、不確実な要素も少なくありませんが、イヌワシの舞う日本の森を未来に引き継ぐために、ぜひとも進めていく必要があります。

皆様からのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



実施主体



南三陸地域イヌワシ生息環境
再生プロジェクト協議会



公益財団法人日本自然保護協会



株式会社佐久

みなさまからのご支援が必要です

2029年まで、イヌワシ野生復帰を継続的に実施し、科学的なモニタリングをするためにはおよそ1億円の資金が必要です。

みなさまからのご支援をよろしくお願いいたします。

プロジェクトの経緯と経過報告、
ご寄付については、
Webサイトをご覧ください。



空を舞う

イヌワシの姿が、
未来へのシンボルになる。

ネイチャーポジティブを
象徴する国内初の挑戦が、
南三陸で始まります。

その飛翔は、人と自然との共生の証

INUWASHI AGAIN

南三陸イヌワシ野生復帰プロジェクト

本プロジェクトは、環境省より、
国のイヌワシ保護増進事業計画に
適合している旨の認定を受けています。

- ・地域内での木材活用（地産地消）
役場庁舎、生涯学習センターなど



- ・町産材のブランディング
- ・FSC林業を通じた
「地域のブランディング」





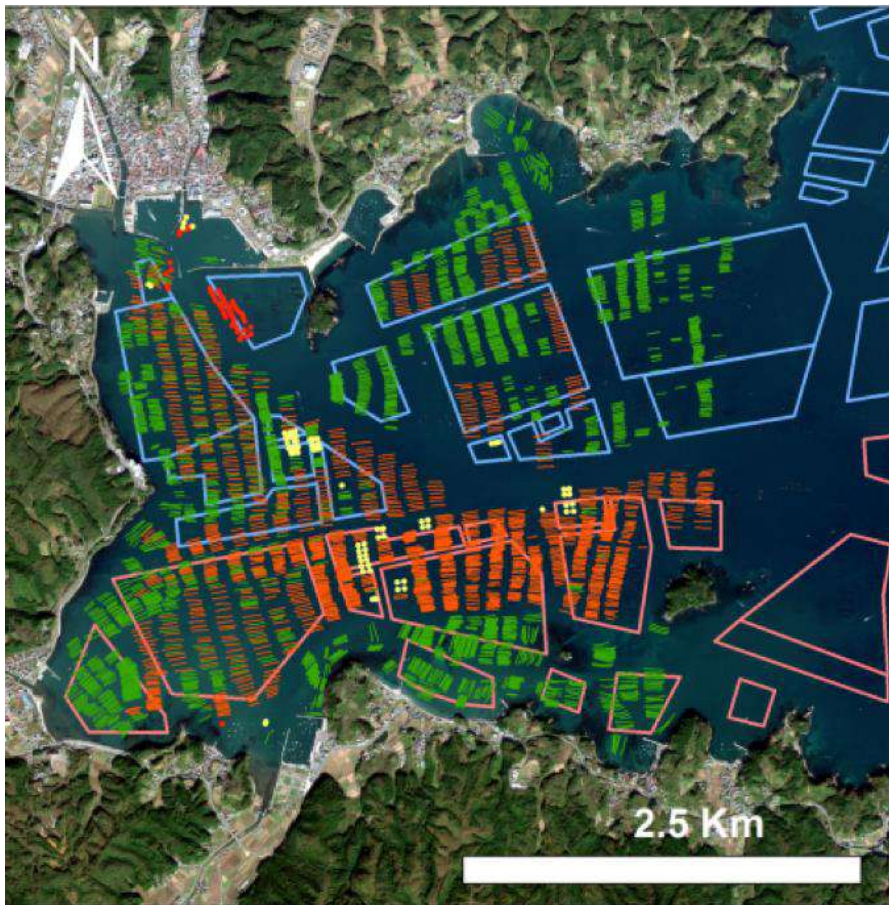
震災前の志津川湾



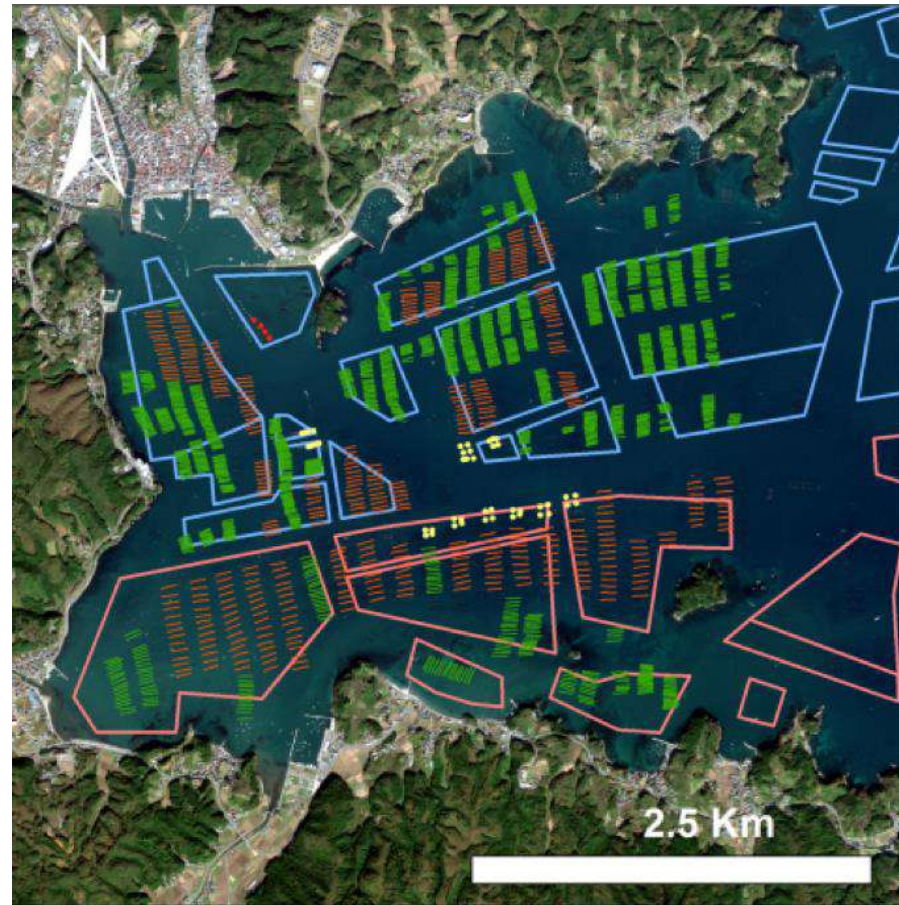
1 / 3 の革命



衛星画像解析による湾奥・湾央部養殖筏分布位置の特定



2009年2月3日



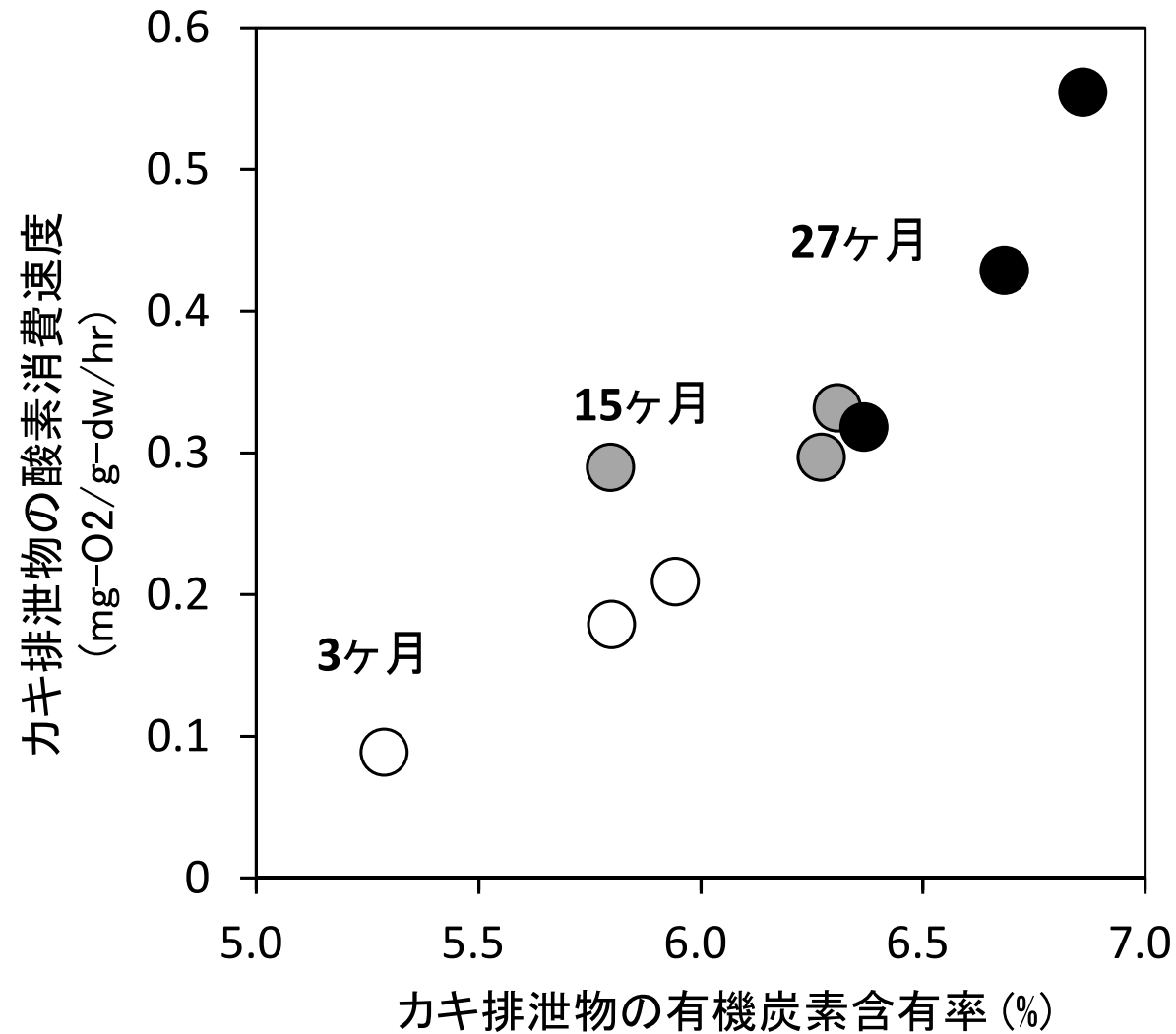
2014年1月15日

衛星画像解析で検出した海面養殖施設配置図
多角形は志津川(青)と戸倉(赤)の区画漁業権
ワカメ延縄式(緑)、カキ延縄式(橙)、カキ筏式(赤)、サケ生簀(黄)

1 / 3 の革命

戸倉地区のカキ 養殖業

	H22	H29	増減
1経営体当たり 生産量 (kg)	1,790	3,545	2倍 ↑
1経営体当たり 生産金額 (千円)	3,380	5,009	1.5倍 ↑
経費 (千円)	2,300	1,330	4割 ↓
労働時間 (時間／日)	10	6	4割 ↓



図(3)2-26 月齢の異なるカキ排泄の有機炭素含有率と酸素消費速度の関係 (2014年11月メソコズム実験結果)

○国内初のASC認証取得

法令遵守 → 適正密度の維持

労働環境改善 → 定休日（働き方改革）

ブランドイメージ → 他の水産物に引き合い

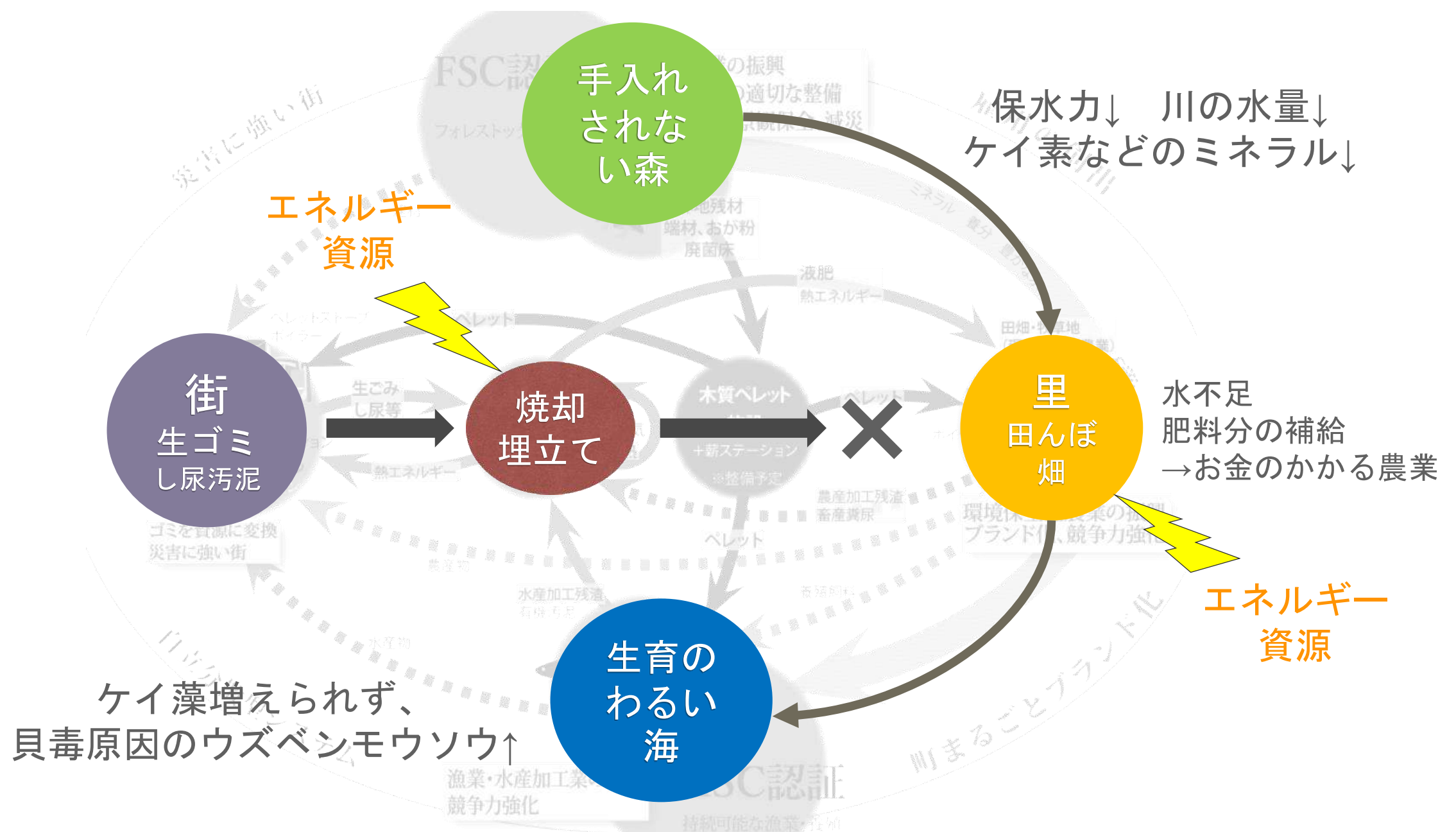
1 / 3 革命 + ASC認証

→ 子ども達に誇れる漁業

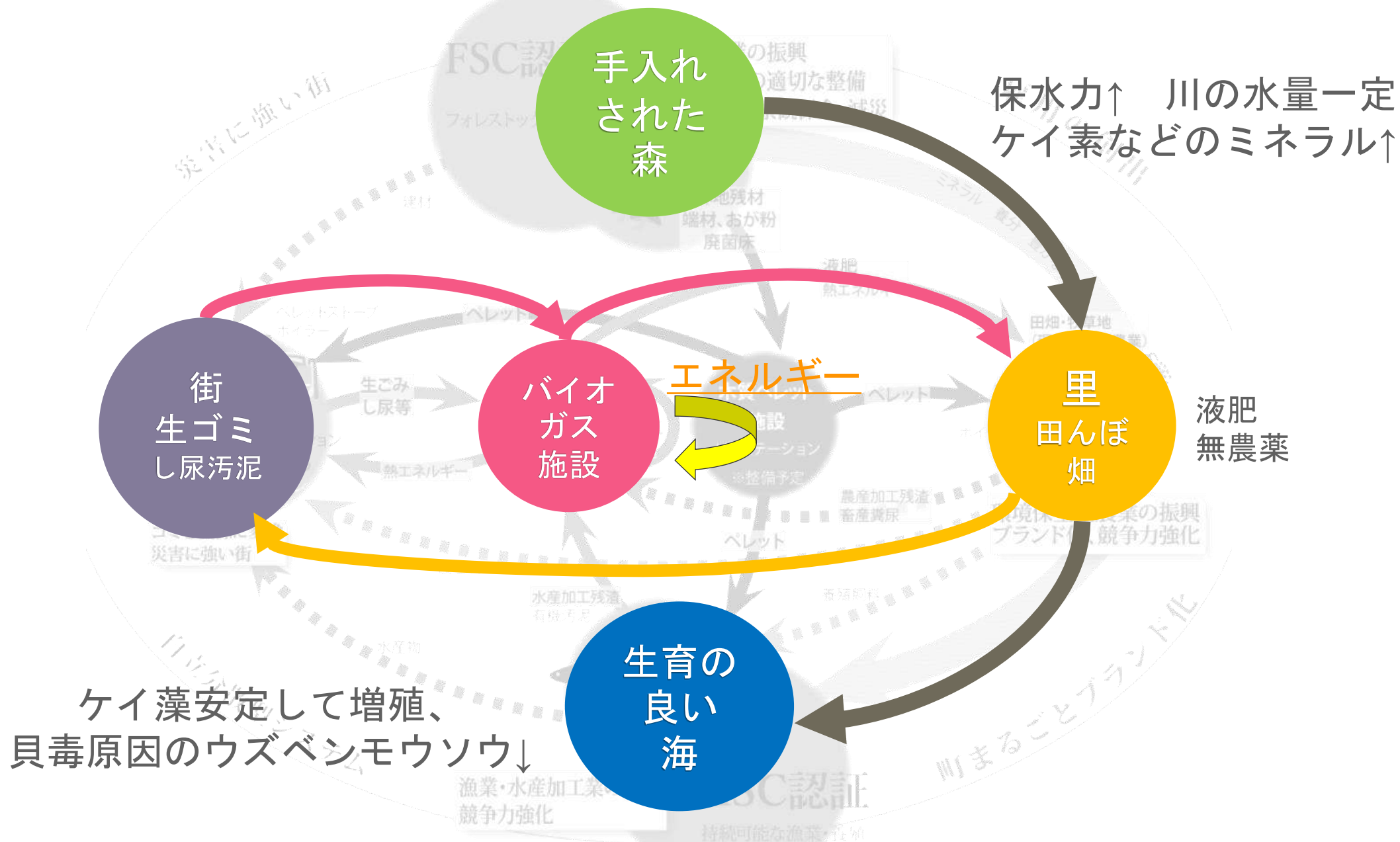
→ 20代の後継者が増加！！

< 令和元年度天皇杯受賞 >

以前の南三陸（これまでの日本）



南三陸の挑戦（これからの日本のモデルをつくる！）







自然共生サイト検索ナビ

検索条件

－すべて－

市区町村で検索

－すべて－

生態系タイプで検索

－すべて－

支援を募集しているサイトで検索

－選択してください－

支援証明書で検索

－選択してください－

開放状況で検索

－選択してください－

生物多様性の価値で検索

－すべて－

認定時期で検索

－すべて－

～

－すべて－

自然共生サイト名で検索

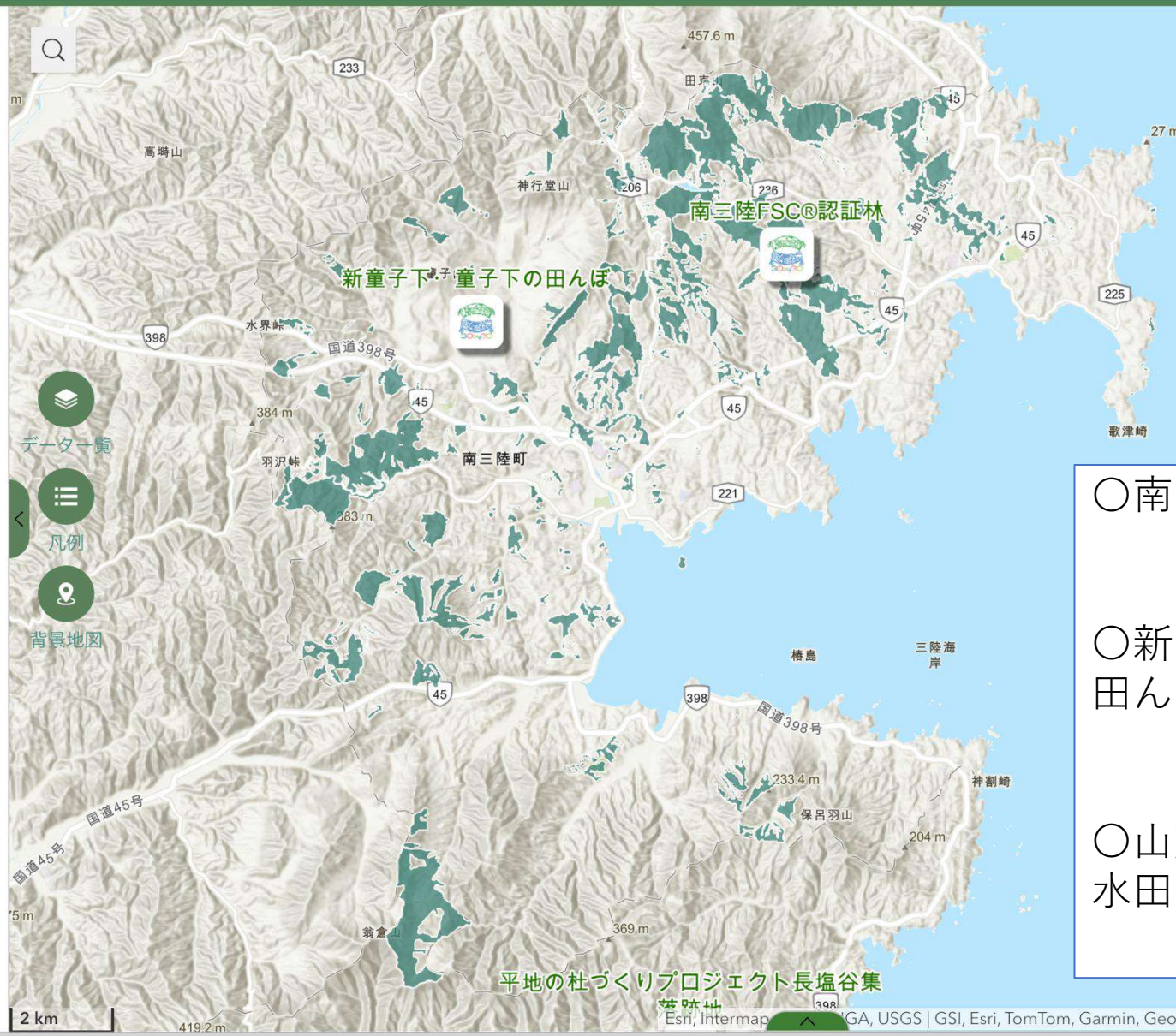
申請者名で検索

面積（ha）で検索

～

適用

キャンセル

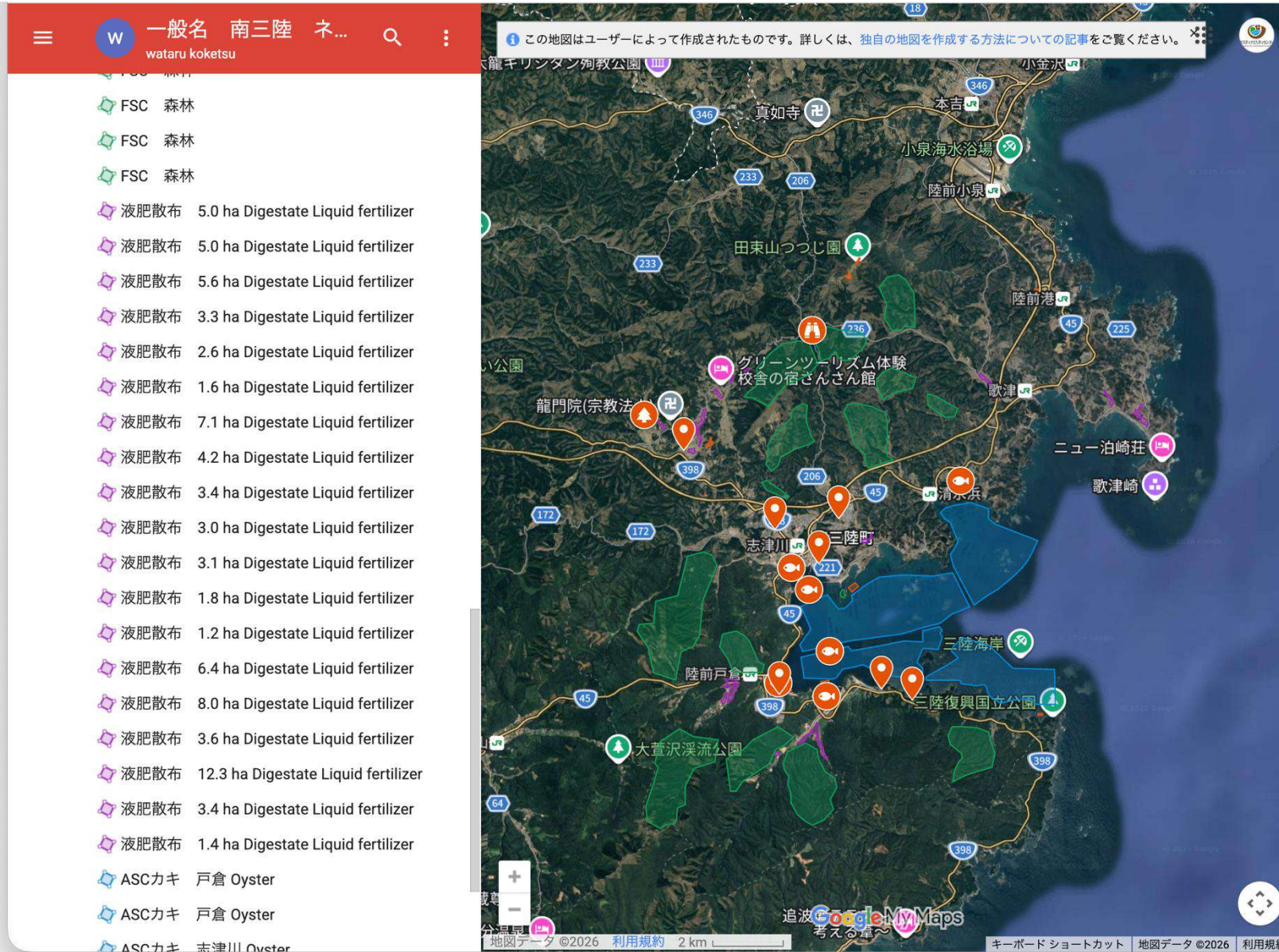


○南三陸FSC®認証林
2471.43ha

○新童子下・童子下の
田んぼ
0.87ha

○山藤モデル 童子下
水田サイト
※新規認定

南三陸のネイチャーポジティブ活動イメージマップ (アマタ株式会社：瀬瀬渉氏作成) 注：位置関係は正確ではない



東北大学ネイチャーポジティブ 発展社会実現拠点 (NP拠点)

地域のネイチャーポジティブ活動の手引き

— ランドスケープアプローチで導く自然の保全・回復と地域の価値創造 —

Practice Guide for Nature Positive Activities

Landscape Approach-Driven Nature Restoration and Regional Value Creation

Ver. 1.0



ネイチャー
ポジティブ
発展社会実現拠点

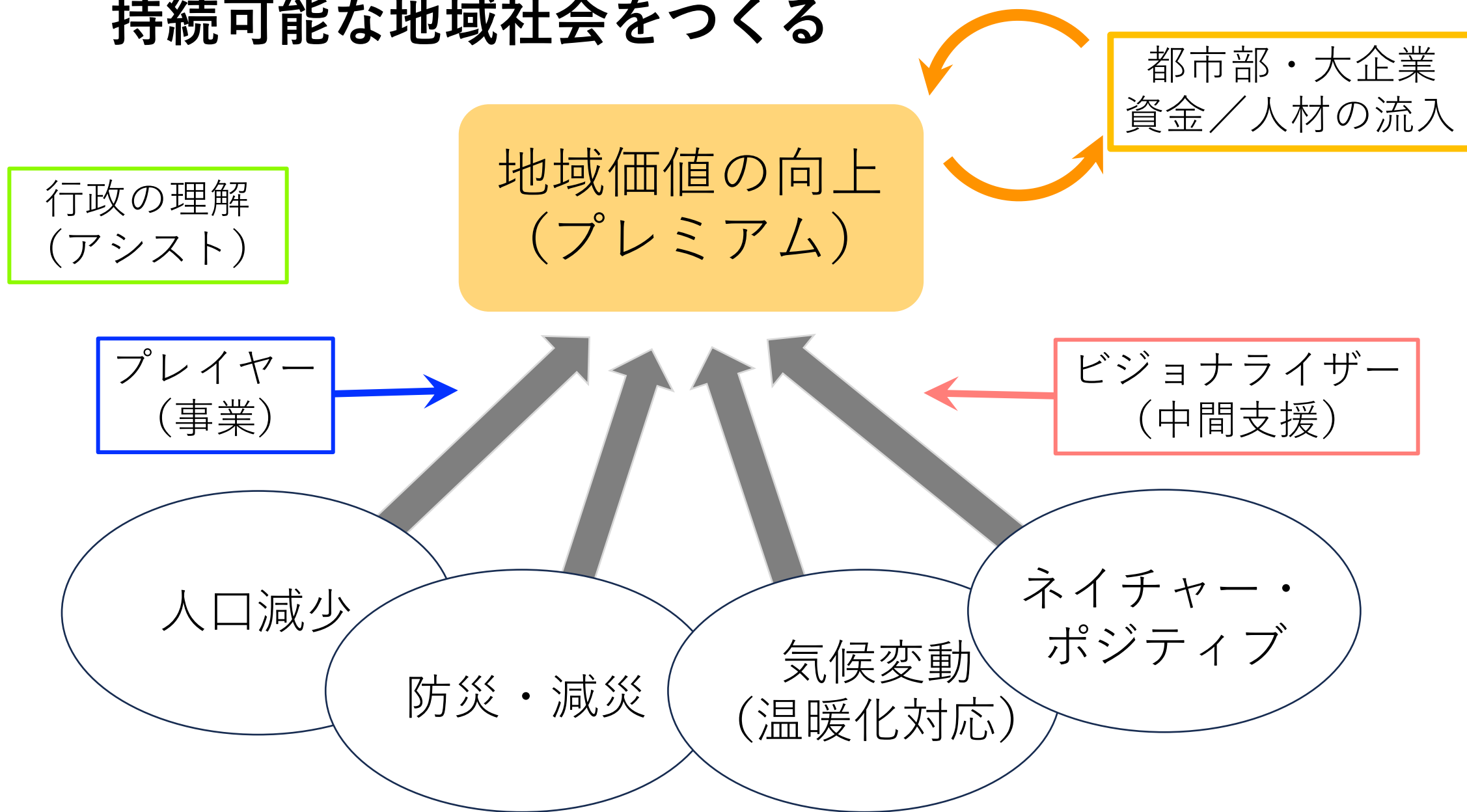
AMITA

東北大学 ネイチャーポジティブ 発展社会実現拠点

アマタホールディングス株式会社

2025 年 11 月

持続可能な地域社会をつくる

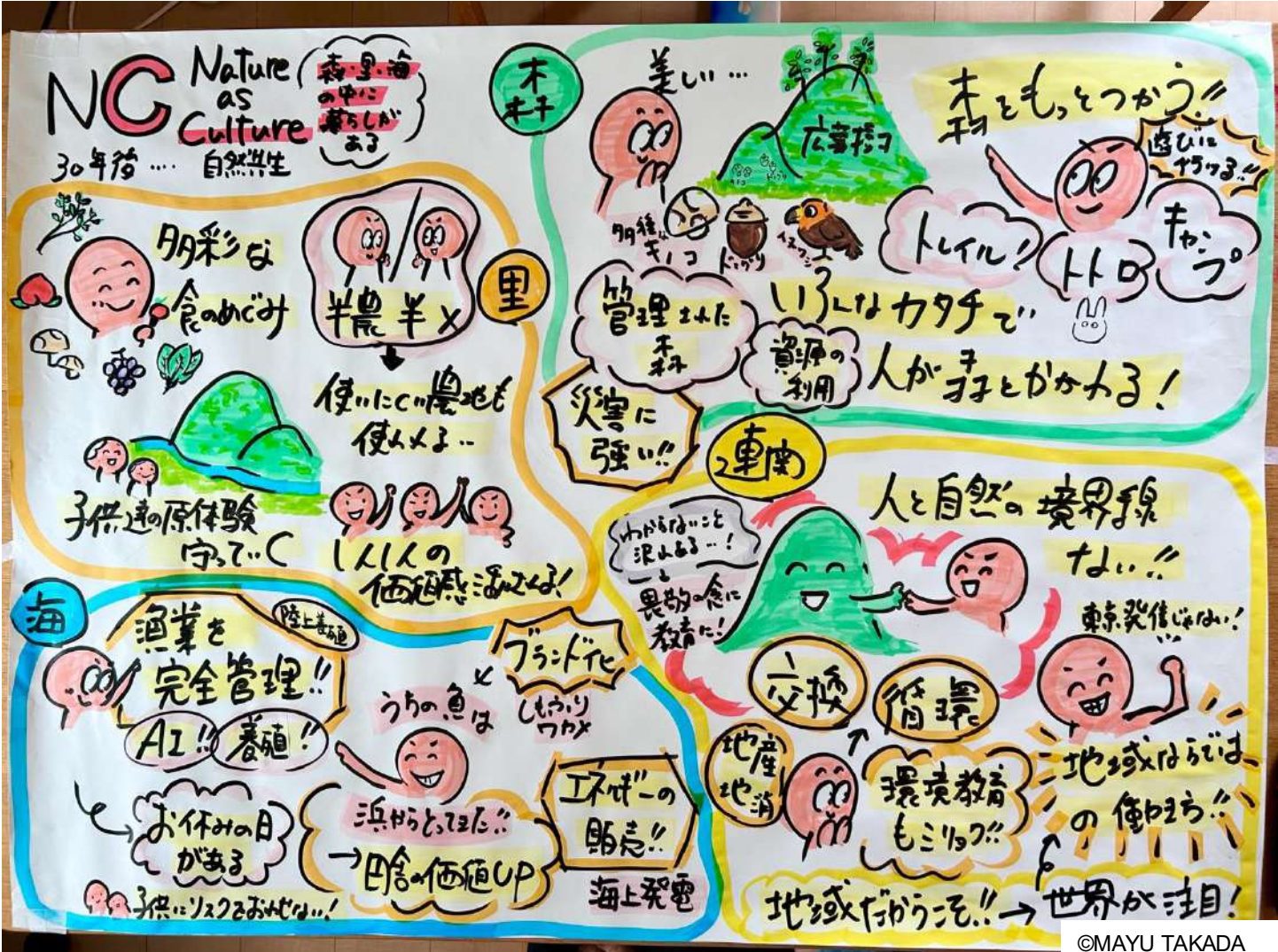


地域価値の向上を生むナラティブ

誇りを持って生きていける地域を実現するための
「未来」につながる物語（ストーリー）

多様なセクターをつないで、いかにして
みんなが共感できる未来を描けるか？

環境研究総合推進費 戦略的研究開発課題 (S-21)
Nature Futures Frameworkを用いた
「南三陸町のネイチャーポジティブな未来づくりワークショップ」



©MAYU TAKADA



©MAYU TAKADA



©MAYU TAKADA

「いのちめぐるまちづくり」を

学びのプログラムとして編集・提供

- 早稲田実業学校初等部 親子フィールドワーク
- 慶應志木高等学校 研修旅行
- アクティブラーニングプログラム（南三陸町観光協会）
- MS&ADグループ グリーンアースプロジェクト
- ブルーフラッグ環境教育業務委託（講座＆ビーチクリーン）
- サステイナビリティ学講座



MS&AD Green Earth Project HPより



東日本大震災から復活のみられない場所でアマモ場再生



MD&ADグループ社員によるアマモ場での環境DNA調査

- ・ 南三陸町
- ・ 宮城県漁業協同組合志津川支所
- ・ MD&ADインシュアランスグループホールディングス(株)
- ・ 鹿島建設(株)
- ・ サステナビリティセンター

2024年3月、志津川湾ブルーカーボン協議会を設立



南三陸いのちめぐるまち学会

「めぐるがみえる」を追求することで
持続可能な社会づくりに貢献する

第4回 南三陸 いのちめぐる まち学会

黒潮がつなぐご縁
グローバル vs. ローカルを超えて行こう！

11/8
(土)

会場：南三陸町スポーツ交流村
(ベイサイドアリーナ)

宮城県本吉郡南三陸町志津川字沼田 56

事前申込み制



学会大会

■定員 200 名

10:00-17:30 開場 9:30-

参加費

個人会員：2,000 円

非会員：6,000 円

中高生：参加費無料（保護者を含む）

事前申込み制

締切 9/30
(火)



午前

講演・対談（予定）

■台湾と南三陸 友情の軌跡
(南三陸町商工観光課 課長 宮川舞)

■台湾の海洋環境保全の取り組み
(台湾海洋委員会海洋保育署 署長 陸曉筠)

■Ocean Challenge 2025 参加講演
(南三陸高校自然科学部
& 南三陸ネイチャーセンター 研究員 阿部拓三)

■ANEMONE(eDNA 大規模観測網)の意義と可能性
(東北大学大学院生命科学研究科・WPI-AIMEC
教授 近藤倫生)

ランチ
タイム

5台のキッチンカーが
会場前に集結予定！

ポスターセッション

※発表は会員のみ可（募集枠 40 件）

全体討論・総評

しづがわ夜市

(道の駅さんさん南三陸内特設会場)

※大会会場からの送迎あり

交流会

11/7

金

前夜祭 14:30-21:30

14:30-

続・ネイチャーポジティブな地域の
シナリオづくりワークショップ

ファシリテーター：齊藤 修 IGES 上席研究員 他

19:00-

ドリンク片手に楽しもう！

海を語ろう！黒潮がつなぐ台湾・南三陸
会場 南三陸まなびの里いりやど
(南三陸町入谷字鏡石 5-3)

11/9

日

エクスカーション

【南三陸 BIO 見学会】【SEED TO TABLE】

【親子で楽しめる 南三陸杉ペンダントづくり】

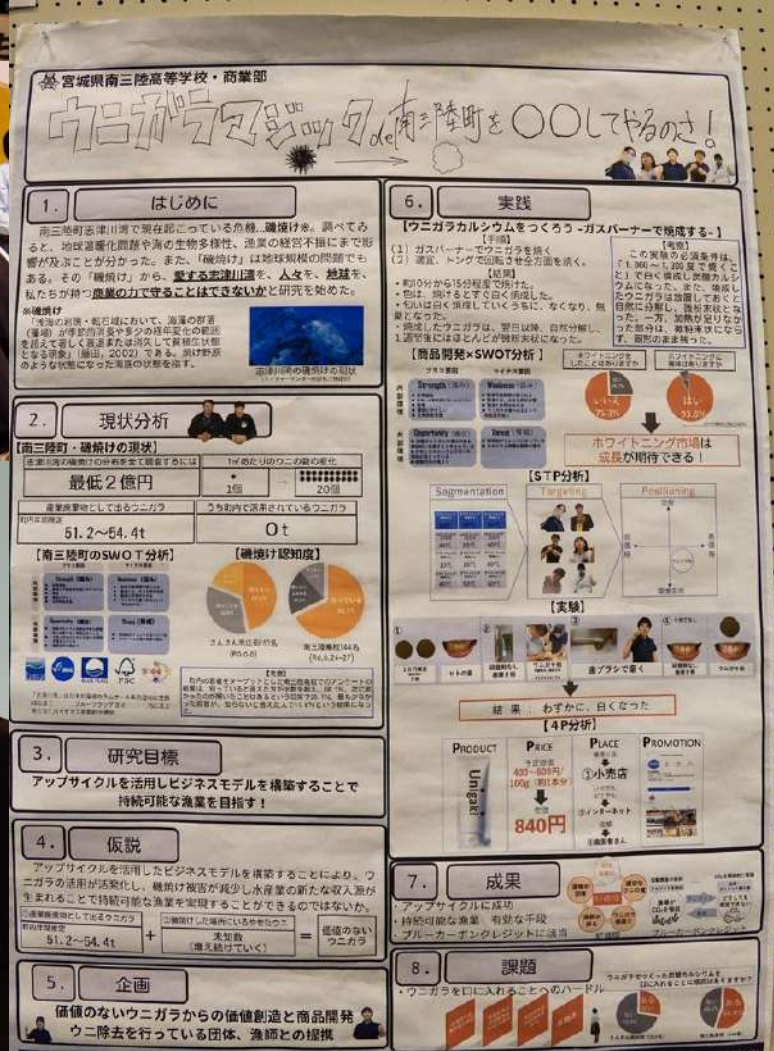
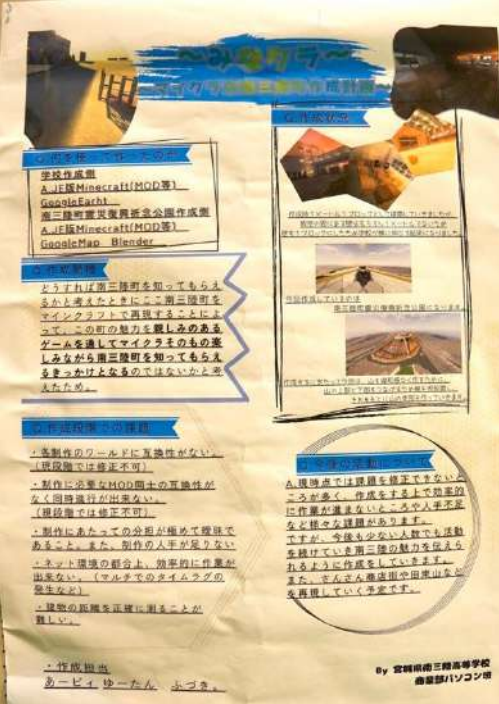
【広葉樹の森づくり チャレンジ施業を訪ねる】

【海中熟成ワイン体験イベント】他

【事務局】(一社)サステイナビリティセンター info@m-sustainable.org Tel.050-5236-2263

共催：南三陸町、環境研究総合推進費戦略的研究開発課題（S-21）後援：南三陸町教育委員会







第4回 南三陸いのちめぐるまち学会 大会

「黒潮がつなくご縁 グローバル vs. ローカルを超えて行こう！」

ネイチャーポジティブ宣言を行いました

更新日：2025年12月08日

令和7年10月4日（土曜日）に南三陸町総合体育館ベイサイドアリーナにおいて、南三陸町合併20周年式典が開催されました。この式典の中で、南三陸町はネイチャーポジティブ宣言を行いました。

ネイチャーポジティブとは、2020年を基準として、2030年までに自然が損なわれるようなことを食い止め、回復させ、2050年までに完全な回復を達成し、自然と共生する社会を実現するという目標です。こちらは、世界的な社会目標にもなっています。

ネイチャーポジティブ宣言を発出することで、人と自然が共に豊かに暮らす地域づくりをより強く進めていきます。

[南三陸町ネイチャーポジティブ宣言\(PDFファイル:361.4KB\)](#)



佐藤町長（中央）と南三陸町高校生が宣言を行いました

環境保全

- ＜ [ラムサール条約](#) ＞
 - ＜ [環境審議会](#) ＞
 - ＜ [再生可能エネルギー](#) ＞
 - ＜ [さわやか南三陸サポートプログラム](#) ＞
 - ＜ [野焼きの禁止](#) ＞
 - ＜ [環境白書について](#) ＞
 - ＜ [住宅用太陽光システム普及促進事業](#) ＞
 - ＜ [みやぎ環境交付金事業](#) ＞
- ネイチャーポジティブ宣言を行いました
- ＜ [ネイチャーポジティブ自治体認証の取得に向けて](#) ＞
 - ＜ [ネイチャーポジティブ自治体認証を取得](#) ＞

ネイチャーポジティブ自治体認証を取得

更新日：2026年04月10日

ネイチャーポジティブ自治体認証を取得しました

南三陸町は、町の環境基本条例や環境基本計画等に基づいて、多くの企業や町民の皆様と連携し、森・里・海の保全に取り組んでまいりました。この度、ネイチャーポジティブ（自然再興）実現のための施策が適切に推進され、その取り組みを持続的に実践していることが公益財団法人日本自然保護協会が定める認証基準を満たしたため、令和8年4月1日に「ネイチャーポジティブ自治体認証」を取得しました。

この認証は、宮城県内で初の取得であり、ラムサール条約湿地に登録された志津川湾の保全などで先進的な取り組みをしていると評価されました。

今回の認証によって「自然を大切にする自治体」としてのブランド力が向上し、保全活動のさらなる推進・強化につながることが期待されます。



今回取得した認証書



令和8年4月6日に土屋理事長(右)から認証書が授与

環境保全

- ＜ [ラムサール条約](#) ＞
- ＜ [環境審議会](#) ＞
- ＜ [再生可能エネルギー](#) ＞
- ＜ [さわやか南三陸サポートプログラム](#) ＞
- ＜ [野焼きの禁止](#) ＞
- ＜ [環境白書について](#) ＞
- ＜ [住宅用太陽光システム普及促進事業](#) ＞
- ＜ [みやぎ環境交付金事業](#) ＞
- ＜ [ネイチャーポジティブ宣言を行いました](#) ＞
- ＜ [ネイチャーポジティブ自治体認証の取得に向けて](#) ＞

ネイチャーポジティブ自治体認証を取得

アクセスランキング

- 1 入札公告（令和8年度）
- 2 ツキノワグマ出没情報と対策について
- 3 南三陸町空き家バンク

ネイチャーポジティブなまちづくりは続く...

南三陸ホームページより